

内部資料が明かす植松聖死刑囚と津久井やまゆり園の支援の実態

相模原障害者殺傷事件からこの7月で丸5年……。元施設職員の前にも6年間勤務していた経験がある。津久井やまゆり園の新たな内部資料をもとに考える。

●はじめに……………渡辺一史
私の手元には、津久井やまゆり園を運営する「かながわ共同会」の職員から、極秘に入手した21枚の書類がある。

植松死刑囚が、在職中に書いたヒヤリハット報告書である。「ヒヤリハット」とは、介護や医療分野で広く普及した取り組みで、現場でヒヤリとしたりハットした事例を記録し、職員どうしで共有するための報告書であり、植松の在職中の仕事ぶりを知る上で重要な記録である。

すでに私は、『文藝春秋』（2021年6月号）に書いた記事の中で、その報告書の存在に触れ、朝日新聞・論壇時評（5月27日）などでも取り上げられ、大きな反響を呼んだ。

今回は、さらに報告書の全貌を明らかにするため、かながわ共同会の元職員であるTさんに21枚のヒヤリハットから浮かび上がる植松像を読み解いてもらう。Tさんは、植松と直接的な面識はないものの、かながわ共同会の職員として15

年以上の勤務歴があり、津久井やまゆり園にも6年間勤務していた経験がある。Tさん自身が体験してきた、やまゆり園とかながわ共同会が抱える問題点についても赤裸々に語ってもらった。

植松の支援の実態は？ 内部資料に見る意外な事実

渡辺 植松死刑囚は、津久井やまゆり園に在職中の約3年3カ月の間に、21枚のヒヤリハット報告書を残しています。こ

れは枚数としては多い方ですか？

T氏 いや多くはないですが、特別少なくもないと思います。ただ1枚1枚を見ていると、ちゃんと自分なりの視点で丁寧にかかれていて正直驚きました。

渡辺 職員時代の植松は、ふまじめで「利用者の腕に落書きをした」などのエピソードが早くから報道されてきました。

また、入倉かおる元園長が判決後の記者会見で語った植松像はこうです。例えば《足が弱くなっている利用者の方を誘導しているときに、ポケットに手を突っ込んで誘導していた》《遅刻や、退勤時

間になっていないのに帰ってしまうという、人としての一般的なルール違反》が目につき、《当時からそういう雑な面、人として一般常識に欠ける面のある職員だった》というものです。

だからこそ、園としては、《デキの悪い支援員だけど、どうにか育てていかなければならないと工夫をしながら育ててきた》と……。これが一般に定着している植松のイメージだと思います。

ところが、植松が書いたヒヤリハット報告書を読んでもみると、実際は違ったのではないかという疑問が湧いてきます。

6月26日、月命日の献花が行われた津久井やまゆり園



具体的に見ていきますが、21枚中、最も特徴的なのは、植松が利用者を救出した2015年3月の報告書です。T氏 このときの植松の行動は非常に的確で、報告書もよく書けています。

渡辺 内容を要約すると、利用者が入浴中に突然てんかん発作を起こし、湯船に沈みかけるアクシデントが起きました。それに気づいた植松が、すぐに利用者を抱きかかえ、救出の処置を行ったというものです。植松はこう書いています。

《14…53浴槽内にて発作を確認し、溺れている状況だったので直ぐに担ぎあげる。硬直痙攣20秒程みられる。脱力後脱衣場に移動し、14…55ダイアップ（発作止めの座薬）を挿入する。15…00バイタルチェックを実施。kt（体温）37・5、BP（血圧）125/68、P（脈拍）110、その後、居室で横になって過こしていた。看護課に連絡し18…00に検温の指示がある》（カッコ内は筆者が補足）

この報告書から何が読みとれますか？
T氏 まず、ダイアップという座薬を入れると血圧が低下しやすいので、バイタルチェックをして看護課に申し送る必要があるのですが、植松はそれをしっかり理解していることです。あと、当然ですが、何時何分にかあったかをメモしてないとこんな報告書は書けません。

渡辺 確かに、分刻みで書いてますね。
T氏 血圧を測れば時間が記録されますから、そこから逆算して時間を記入したのかもしれませんが、少なくともどう行動するかだけでなく、最初から記録に残すことを心がけて動いています。

それと、報告書には「原因及び問題点」という欄がありますが、報告者の個性が一番あらわれる部分なんです。植松は、「発作をもっている利用者様はシャワー浴のみ実施する。しかし、入浴は楽しみみの一つの為、見守りの徹底を行う」と書いています。もし利用者のことをあまり考えない職員だったら、「シャワー浴のみ実施する」で終わっていたと思うんです。でも植松は、利用者さんは入浴が楽しみだから、見守りを徹底したいと書いている。彼なりに利用者さんのことを真剣に考えている証拠だと思います。

渡辺 自分が、さも利用者思いであることのアピールというのではなく？
T氏 そう言ってしまうえばそうかもしれませんが、普段から何も考えていない人には、おそらく書けないと思います。

は誰にでも起こりうる物です。職員個人のミス組織のミスに発展させない為にダブルチェックを行っています」と植松を励ますコメントを書いています。
渡辺 浴室の報告書が、2015年3月のものですから、その2年で、植松に対する上司の視線がガラッと変わったということですね。それは、一つにはイレズミの発覚があるんじゃないでしょうか。

入浴介助中に植松のイレズミに同僚が気づき、上司に報告したのが2014年12月のことです。そこから植松が退職に至る2016年2月までの間、彼は職場でかなり冷遇されていた可能性があるというのですか？
T氏 まわりの職員も、上司の態度に影響を受けるでしょうから、村八分のような感じだった可能性は十分あると思います。あと、私の元同僚で「つばさホーム」時代の植松をよく知る女性職員がいるのですが、「その頃の植松君はかわいかったです。本当に一生懸命だったよ」と書いていました。ところが、彼が常勤採用されて「のぞみホーム」に移ってから、

イレズミ発覚を機に 上司の対応が変わった？

渡辺 かたや、植松の報告に対して、上司のコメントが問題になってくるわけですね。全文を引用しますが、一読しただけでは何を言いたいのかわからないと思いますが、上司はこう書いています。

《溺れるとは、広辞苑第三版によると、水中で泳げないで沈む、または死にそうになる」となります。今回の件を確認しましたが、浴槽内に頭部は浸かりましたが、直ぐに気付いたので水を飲むまでには至っておりませんでした。対応は迅速で賞賛すべき内容なのに、報告に「溺れている」との記載があるため重大な結果を招いてしまった、と思われてしまいました。今後は、対応はそのまま、報告する際の記述に注意してください。》

これは要するに、「溺れる」なんていう大げさな言葉を使って、必要以上に騒ぎ立てるなどという意味ですよ。

T氏 僕もこのコメントを読んだときは、植松に思わず同情してしまいました。発

だんだんおかしくなっていった。先ほどの女性職員が、廊下ですれ違った植松に、「最近どう？」と声をかけると、「やめたいと思ってる」と言ったそうです。「どうしてそう思うの？」と聞いたところ、「利用者に気持ちを送っても、返ってくるものがない、働いていてむなし」と。仕事に対して、もがいていたというか、悩みを受け止めてくれる人がいなかったのかもしれない。

入所者のS字結腸捻転への 植松の対応

渡辺 他のヒヤリハットから浮かび上がってくることは何かありますか？
T氏 植松が2014年11月に書いた報告書も、彼のとなりや、支援員としてのスキルをよく表していると思います。

何が起こったのかというと、利用者さんがS字結腸捻転を起こして入院することになったときの報告書ですが、植松はこう書いているんです。《昼食時 口の開きが良くなかった。15・00検温では37・4℃であったためシャワー浴のみの

作を起こした利用者さんを助けたのに、こんなコメントはナンセンスですよ。

僕自身は、植松と同じ職場で働いた経験はありませんが、植松をよく知る同僚の話によると、彼は「バカ植松」と呼ばれて、職場内ですごく陰口を叩かれていたというんです。「あれだけ職場でバカにされてたら、そら頭だっておかしくなるよ」と言っている人もいました。

渡辺 入倉元園長の《デキの悪い支援員だけど、どうにか育てていかなければならないと工夫をしながら育ててきた》という言葉も疑わしくなってきましたね。
T氏 今回、植松の21枚の報告書を精査してみても、彼がまだ新人だった頃のヒヤリハットを見ると、上司の対応がまったく違っているのがわかります。

植松は2012年12月に非常勤職員に採用され、「つばさホーム」という部署に配属されますが、その時代の2013年3月、利用者さんの薬袋に植松が間違った薬を入れてしまい、別の職員がダブルチェックした際に気づいたという報告書が出ています。その際、上司は《ミス

実施とした。16・00過ぎにシャワー浴を終えて脱衣場に戻ってきたところ、腹部全体の膨張に気がつく。その場で看護課に連絡し、相模原赤十字病院に通院の指示を受ける。17・00に相模原赤十字病院に到着し、18・00に入院となる》
渡辺 この報告書のすぐれた点は、どこですか？
T氏 結局、その日のうちに入院したわけですから、利用者さんの症状が進んでいて緊急性も高かったんだと思いますが、そのことに誰も気づけなかった。ところが、植松は「昼食時の口の開きが良くなかった」というささいなことから異変に気づき、検温してみると熱がある。その後、シャワー浴を終えて脱衣場に戻ってきた利用者さんの様子を見に行ったら、ころ、腹部が膨張している、これはまずいと思って看護課に連絡します。浴室には別の職員もいるはずですが、その人は気づかなかったんでしょう。

渡辺 昼食時から植松は「ヘンだ」と思っただけで、そうでないかと、
「昼食時」とは書けないですね。

るよと言った職員について、そういった事実は確認されませんでした」と植松の主張を完全否定しています。これについて、Tさんはどう思いますか？

T氏 それは入倉さんが事実を知っているのにウソをついたか、あるいは、部下から上がってきたウソの報告を本当だと信じ切っているかのどちらかですね。

入倉さんは、僕が津久井で一緒に勤務していた時代は、フロアに現れない人として有名でした。幹部職員で現場にちゃんと入っている人は、数えるほどしかいません。たいてい現場の報告を見聞きするだけで、そんな事実はありませんと言ってしまう。

渡辺 やはり植松の証言は現実だった？

T氏 利用者さんに「おい、こら、てめえ」という口調で話す職員は、ごく普通にいます。あと、先輩職員で「自閉症なんて気合いで治る」という持論を得々と語る人もいました。

渡辺 どういう意味ですか？

T氏 自閉症の人には、力づくで言うことをきかせればいいと。その人は、もし

自分が自閉症の支援論の本を書くなら、1ページ目は「上手な握りこぶしのつくり方」だと言っていたくらいです。

渡辺 うーん……。

T氏 先ほど、植松が「のぞみホーム」に配属されてから、おかしくなったのではないかと言いましたが、その人はまさにのぞみホームの職員でした。

のぞみホームは、昔からいわくつきのホームで、だから植松がのぞみで、ああいう考え方に取りつかれたのには理由があるんじゃないかと……。

それも含めて、僕はこれまで素行に問題のある職員をたくさん見てきました。かながわ共同会では年1回、管理職と面談する機会があるのですが、僕は職員の問題事例を文書にまとめて、園長に上申したこともあります。

渡辺 今回、その文書を持ってきていた

だったので、ぜひ紹介してください。

T氏 これは津久井やまゆり園時代の先輩職員の事例ですが、《利用者にヒンズ

ースクワットをたびたび強要。利用者が職員の前から脱出を図ろうとして足を滑

り利用者をトイレに長時間座らせる」など、複数の職員による虐待が発覚し、厚木市から虐待認定を受けています。

Tさんは、この事実を身近で見て知っていますか？

T氏 あるとき、僕が夜勤をしていたんですが、喫煙所へタバコを吸いに行こうとして、隣の寮のトイレを通ると、暗いトイレの中で、一人の利用者さんが、拘束板をヒザに載せて座らせられているんです。そして、その2時間後くらいに、もう一回タバコ吸いに行こうとして、トイレをのぞくと、まったく変わらない姿勢で座っている。おそらく、ひと晩じゅう、あのままだったんじゃないか。そういう光景を何回も見えています。

渡辺 要するに、洋式トイレの便座に利用者を座らせて、膝の上に板を置いて、

利用者が便座から立ち上がれないようにするといいことですよ。どうして夜通しトイレに拘束するんでしょう。

T氏 おむつの中にされちゃうと、めんどくさいからですよ。それと、利用者

さんによっては、腸閉塞を患っていて、

らせて転倒。頭部を3針ぬう傷を負ったが、先輩職員に「利用者が突然動き出してケガをした」ことにしよう示唆。虚偽の報告書を作成する。《

なぜヒンズースクワットを？

T氏 なぜかわかりませんが、自閉症の利用者さんは「反復性行動」をとる方が多いので、スクワットさせておもしろがっていたんじゃないでしょうか。

渡辺 ……ひどいですね。

T氏 あるいは、《業務時間中、フロア内にて携帯ゲームで遊んでいる。上司に見つからないようにと、新人職員にフロア入り口を見張らせる》ということも。《夜勤当番にも関わらず休憩室におもむき、休日職員とともに飲酒。その際、およそ4時間フロアを無人にする》。

あと、キリがありませんが《業務時間内のPC作業の頻度が高く、寮内の支援を別の職員に実施させているのが現状。

夜勤中に仮眠と称して、午前0時〜5時までフロアに現れず。その間の各種業務は相方の夜勤職員が代行》というの。《

渡辺 PC作業とは何のことですか？

腸の中に食べ物をためないよう、下剤を入れるんです。そうになると、間違いなく便が出るので、場合によっては布団が汚れたり、体を洗ったりしなくてはならなくなる。それを手間だと考える職員がそうしてしまうんです。

篠田 拘束板があるということは、そういう拘束がシステム化されているということですね。

T氏 建前上は、拘束板というのは、上半身のバランスを保てない利用者さんのためにあるんですが、事実上は逃げられないようにする目的で使われていました。渡辺 何割くらいの職員が、そういうことをやっていたんですか。

T氏 僕が愛名やまゆり園に勤務していた感触でいうと、だいたい3割くらいです。虐待認定されたおかげで、今ではなくなっただけだと思いますけど。

何よりも失敗を恐れるお役所的な体質

T氏 でも、表沙汰になるような身体拘束や虐待はまだわかりやすいのですが、

トイレに長時間座らせる愛名やまゆり園での虐待

渡辺 愛名やまゆり園でも昨年1月、

表に出てこない虐待の方が、実は問題だ
と思っっています。

渡辺 どういうことですか？

T氏 日々のおむつ交換をちゃんとすると
とか、利用者さんを落ち着いて寝かせる
とか、清拭や体位変換をちゃんとすると
か、そういう日々の土台がしっかりして
いないと、利用者さんも安定して生活で
きないのですが、かながわ共同会では、
そうしたごく当たり前の支援をほとんど
重視していません。

それよりも、いかに会議で発言する
とか、外部のセミナーなどで事例を發表
するか、あるいは上司にうまくゴマをす
って気に入られるかが、出世する上で重
要視されるくらいがあるんです。

例えば、利用者思いの支援をしようと
すると、失敗することもありますよね。

渡辺 例えばどういうことですか？

T氏 車いすに座りっぱなしの利用者さ
んに、車いすから降りてもらおう時間をつ
くったりとか。そうすると、壁にぶつか
ったり、転ぶ可能性もあります。

だけど、かながわ共同会の体質という

のは、失敗をすると、失敗したことだけ
がフォーカスされて、「あいつはダメな
職員だ」とレッテルを貼られてしまう。

上司に気に入られるのは、結局何もし
ない職員です。何もしないということは、
失敗しないということなので。

渡辺 よく、かながわ共同会は「県以上
にお役所的な体質」といわれたりします
が、そこまで極端なんですか。

T氏 もっと言うなら、利用者さんが着
ているポロシャツのボタンをとめようと
する人さえ、なかなかいません。服着た
なら、それでいいじゃん。

朝起きて、目ヤニがいっぱいついてい
ようが、気にとめない職員もいます。タ
オルを用意して、顔を拭いてあげる職員
もいますけど、そういう人は、「あの人、
ちよくちよく失敗するんだよね」とか、
だんだん隅に追いやられていきます。

僕が危惧しているのは、新任の職員が
入っても、そういう先輩職員の悪いところ
を学んで、マネし始めることです。そ
うなると、利用者さんのことを真剣に考
える職員がほとんどいなくなってしまっ
ていく。

るをえないような環境なんですね。

T氏 職員も病んでるんですよ。結局、
利用者さんを閉じ込めたり、拘束したり、
そうやって、生かさず殺さずの状態に
置いていることによって、実は自分たち
も、生かさず殺さずの毎日になってしま
う。仕事のやりがいも感じられずに、
1日8時間なりをムダにしてしまってい
ることに気づこうとしないんですよ。

●おわりに

折しも6月末、かながわ共同会の理事
3人が退任（草光純二理事長、樋川芳夫
常務理事、入倉かおる津久井やまゆり園
園長）し、新たな理事が選任された。

そして8月からは、新園舎として生ま
れ変わった津久井やまゆり園がスタート
することとなる。

神奈川県黒岩祐治知事は、かながわ
共同会の理事退任と引き換えのようにし
て、共同会の指定管理の継続を認めるに
至った。しかし、当のかながわ共同会は、
理事が退任した理由と、これまでの不適
切な支援に対する責任について、いまだ

僕はこれまで何度も提言をしてきたんで
すが、さすがに心が折れてしまいました。

なぜ施設の職員たちは 口を閉ざすのか

渡辺 今回、こうしてTさんが証言して
くれています。これまで、やまゆり園
の職員が実情を語ってくれることはあり
ませんでした。なぜだと思えますか。

T氏 植松の発言を聞いて、大なり小な
り自分の、痛い腹を探られる部分があ
るからではないかと思えます。

実は、「障害者なんていなくなればい
い」と言っていたのは植松ひとりじゃな
い。先ず、先輩職員の中には、「彼らが
生かされること自体が、血税の無駄遣
いだ」とはつきり言い切るような人も
いました。そういう環境で、植松があし
た思想に染まっていったという可能性が、
誰しもの頭によぎったのではないと思
います。だからこそ、この件は心の中に
そっと閉じ込めておこうと……。

渡辺 Tさんがこうして証言をしようと
思ったのはどういう思いからですか。

明確に語ろうともしていない。

県は昨年7月、やまゆり園を含む6つ
の県立施設を調査する「障害者支援施設
における利用者目線の支援推進検討部
会」をスタートし、その報告書が今年3
月にまとめられたが、ここでは県が、津
久井やまゆり園の虐待問題を隠蔽し続け
てきた事実についても報告されている。

《県職員は、報告書の対象となった利用
者以外にも虐待を疑わせる身体拘束が行
われていることを認識しながら、検討対
象とせず、それでいてあなたも園全体で
身体拘束がゼロとなったかのような誤解
を与える文書を作成し、県に提出してい
る。そのことの責任は極めて重大であ
る》——ここまで踏み込んだ報告がなさ
れたこと自体は評価すべきだが、黒岩知
事が掲げる「利用者目線」の支援は、い
まだ端緒にすぎない。

なお、ここに登場した元職員T氏は、
7月25日のロフトプラスワンでの「相模
原障害者殺傷事件の真相に迫る！」に登
場する予定だ（詳細はP35参照）。

渡辺 結局、今の職場環境というのは、
職員の人たちが鬱積をため込んでいかざ